

②第2回協議会

■日時:令和5年7月4日(火)15:00～

■場所:洲本商工会議所会議室

■出席:下記

【委員】

洲本市企画情報部 部長 福島 太(副会長)

南あわじ市総務企画部 部付部長(企画担当) 家田 和幸(監事)

淡路市都市整備部 部長 高田 茂和(監事)

(公社)兵庫県バス協会 総務部長 吉本 道明(代理出席)

(公社)兵庫県バス協会 淡路地区部会 会長(淡路交通㈱) 運輸部 部長) 正木 康文

舞子高速バスストップ協議会(神姫バス㈱) バス事業部計画課 課長) 前田 啓介

(一社)兵庫県タクシー協会淡路部会 会長(㈲)みなとタクシー 代表取締役) 池田 昌宏

㈱淡路ジェノバライン 安全総括管理者取締役 清水 紀晶(欠席)

沼島汽船㈱ 代表取締役 松本 正也(欠席)

兵庫県淡路県民局洲本土木事務所 所長 勝野 真

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所洲本維持出張所 所長 江崎 祐也

洲本商工会議所 専務理事兼事務局長 谷池 淳司

五色町商工会 事務局長 長井 栄子

南あわじ市商工会 事務局長 宮崎 宏明(欠席)

淡路市商工会 事務局長 伊藤 雅樹

(一社)淡路島観光協会 事務局長 福浦 泰穂

(一社)淡路島観光協会 観光戦略室長 地白 雅則

洲本市連合町内会 会長 宮奥 正一

南あわじ市連合自治会 会長 原 孝

淡路市連合町内会 会長 魚住 幸市(欠席)

洲本警察署 交通課 課長 大田原 秀幸

南あわじ警察署 交通課 課長 村上 正浩

淡路警察署 交通課 課長 仲 充宏

学識経験者兵庫県立大学 名誉教授 福島 徹(会長)

㈱JTB 神戸支店副支店長 富田 紳一(代理出席)

近畿日本ツーリスト㈱ 公務地域共創事業部 リーダー 林 富士雄(代理出席)

【オブザーバー】

国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課 課長 酒井 大斗(欠席)

国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部 首席運輸企画専門官 田中 康嗣

兵庫県土木部交通政策課 主査 江本 賢治(代理出席)

洲本市健康福祉部福祉課 課長 植竹 英樹
南あわじ市総務企画部ふるさと創生課 主査 濱岡 寛二〈代理出席〉
淡路市企画情報部 部付部長兼まちづくり政策課長 野田 勝

■議事概要

1. 開会

西原事務局長:ただ今より「令和5年度第2回淡路島地域公共交通活性化協議会」を開会する。

2. 会長挨拶

福島会長:挨拶を行う。

西原事務局長:今年度初めて委員が一堂に会しての会議となるため、簡単に自己紹介をお願いする。

次に、会議の成立要件に関して、ただいまの出席委員は22名で、委員の総数は26名である。
規約第7条第2項の規定により過半数を満たしている為、会議が成立している事をご報告申し上げます。それでは、以降の進行については福島会長をお願いする。

3. 議事

福島会長:次第に従って進める。次第3.議事1の「現行計画の目標値の達成状況」について事務局より説明を求める。

コンサルタント:資料(資料1)により説明。

福島会長:説明いただいた議事1に対し、質問や意見があればお願いする。

(質問・意見なし)

福島会長:質問がないようなので、議事2の「めざすべき将来像と課題」について事務局より説明を求める。

コンサルタント:資料(資料2、3, 参考資料1, 2)により説明。

福島会長:ただいまの説明について、質問や意見があればお願いする。将来像を実現するために具体的に何をするのか考えていく必要がある。アンケートは回収中、整理中である。結果は次回の協議会でお伝えする。淡路島における公共交通を持続可能にするには、地域の人だけでなく、来島者にとっても便利な交通であることが必要となる。拠点の整備等を進めていく必要がある。

谷池委員：資料2の P23 の交通結節点について、洲本インターチェンジの停留所は地元の方や観光客の方の利用が多いが、待合場所が小さい。資料の課題として挙げられているが、ぜひとも利便性向上という意味で整備をお願いしたい。

福島会長：拠点の整備は、色々なことをしていく必要がある。ラストワンマイル、二次交通の充実をどうするのかということも検討する必要がある。

谷池委員：洲本インターチェンジの停留所は観光客の方からクレームも寄せられている。洲本インターチェンジの停留所は淡路島の観光の玄関口の一つなので、整備をよろしくをお願いしたい。

福島会長：頂いた意見を検討していく。より具体的に改善をしていけたら良い。他にないか。

勝野委員：busmo(バスモ)チラシを添付いただいているが、7月1日からバスやコミュニティバスに加えて船を含めたルート検索、また、観光地へのアクセスも検索できるアプリ(busmo)が使えるようになっている。既存の交通網を網羅的に検索できる、非常に良いものが出来たと思っている。一方、資料3のP3には、「利用しやすさ・分かりやすさの向上に向けたシームレスな利用環境の創出」という項目があり、シームレスな移動環境の創出が依然課題とある。busmoに、運行の遅延状況や運休状況などの情報が入ると利用者の利便性が更に上がる。ご検討いただきたい。

福島会長：交通モードや事業者間の連携については、交通網形成計画の検討段階からずいぶん進展している。意見も踏まえ、少しでもサービスの質向上につなげたい。

富田委員：busmoでは、施設と連携したクーポンなどの状況はどうなっているか。

事務局：施設と連携したクーポンまでは進んでいない。MaaS的な形で連携できるよう検討をしていきたい。

富田委員：観光の観点では、宿泊の状況はコロナ前の2019年度を維持あるいは上回っており、淡路島の注目度が高まっている。関西圏からの観光客が7割、8割となっており、今後さらに観光客を増やしていくには、関東圏の方が来られてマイカーを使わずに回れることが重要である。クーポンなどの連携ができると非常に良い。

宮奥委員：アンケートについて、コミュニティバスの実証実験の際にアンケートを実施したが、利用意向を聞くと、実際は利用しない方でも利用すると回答し、需要が大きく出る傾向にある。この辺りの分析としてはどうなっているか。

福島会長：今回のアンケートでは、公共交通を使った際にどんな不便を感じるか、どんなサービスがあったらよいのかなど改善点・課題を中心に聞いている。需要に関しては、第一義にはしていない。

田中委員：資料2のP10で高速バスは5事業者と記載がある。資料1のICカード決済の導入の目標値が6社、達成が5社になっている。すべての事業者が導入済みという理解でよいか。P15でタクシーの状況は11事業者とあるが、うち2事業者が休止中である。休止中の事業者名も記載するのか、整理をしていただきたい。資料3のP2の図について、支線の標記など、表との整合を図っていただきたい。

事務局：高速バスは現在5事業者となっており、すべての事業者がICカード決済を導入済みである。

福島会長：ご指摘の点は確認する。他にお気づきの点があれば、事務局にお伝えいただきたい。データに関して、免許の返納状況の最新のデータ等もあれば提供をお願いしたい。

前田委員：高速舞子のバスストップの環境改善については検討を行っている。現在、高速舞子のバスストップは2バスしかない。1バス目が四国方面、2バス目が淡路方面であるが、淡路方面は行き先が多く、お客様で混雑している状況である。3バス目を作れないか動いているが、高速道路の環境整備は本四高速の管轄の部分であり、課題が多い。高速道路上の施設改修を、1事業者で要望しても実現は難しく、協議会として本四高速に要望を出さなければ改善は進まない。

福島会長：ご指摘いただいたことを含めて、何らかの形で連携して協議していくことが大切である。

吉本委員：資料3の「目指すべき将来像と課題」で将来像がいくつか挙げられているが、将来像が確定した後で目標値を示すことになるのか。

福島会長：具体的な数値目標を立てることは必要であるが、どこまでの数値目標とするかは今後の検討となる。

他に意見がないようなので事務局に進行を託す。

西原事務局長：次回の協議会は9月ごろを予定している。本日のご意見、アンケートの結果を踏まえ計画の精度を上げていく。閉会にあたり福島会長よりご挨拶いただき閉会としたい。よろしく願います。

福島会長：持続可能な公共交通をどう実現していくか。きめ細やかな課題を反映させていく、少しでも工夫して改善させていく事が利用者を増やしていくことにつながる。今日は議論に上がらなかったが、交通では安全、安心も重要になってくる。安心して淡路島を訪れていただいて、楽しむ事が大切である。少しでも淡路島を訪れる人が増え、かつ安全で安心で、そして便利だという絵が描ければ良い。お力添えをいただきたい。

西原事務局長：ただいまをもって令和5年度第2回淡路島地域公共交通活性化協議会を閉会する。